

南アルプス市立櫛形中学校関係者評価委員会	平成29年1月30日(月)作成
<p>第1回学校関係者評価委員会</p> <p>実施日：平成29年1月30日（月）午後5時30分～6時30分</p> <p>会 場：南アルプス市立櫛形中学校校長室</p> <p>参加者：学校関係者評価委員(◎は委員長)</p> <p>【学校評議員】足達勝子 相原千里 (◎)名取英雄 横小路淳一</p> <p>※功刀千恵美委員は都合により欠席</p> <p>【PTA役員】前田孝一（会長）</p> <p>【学 校 側】小田切雅裕（校長）保坂伸（教頭）笹本忠彦（教頭）浅利進（教務主任）</p>	
<p>学校関係者評価委員会 協議内容</p> <p>(1) 平成28年度学校運営について</p> <p>(2) 学校評価概要について</p> <p>(3) 自己評価書について</p> <p>(4) その他（学校関係者評価書作成について）</p> <p>(5) 学校関係者評価委員，学校関係者評価委員会からの御意見</p>	
<p>【学校関係者評価書】 《学校関係者評価委員の先生方からのご意見から》</p> <p>I 学校教育目標・学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田切校長は実践派校長であり，その積極的な学校経営の下，職員が一致団結して実践に取り組まれていることで，学校が楽しい，充実しているという気持ち，学校生活を肯定的に捉える空気が生まれている。様々な活動の成果について，それが表れている。 ・こうした細かいデータをもとに評価を行うことも必要だが，数値に一喜一憂するのではなく，生徒に寄り添うこと，学ぶ意欲や心を育てることが大切だ。今は，このことに校長先生が中心になって学校全体で取り組まれていることがよい。職員の中にみんなでやろう，という同僚意識が育ち，心と心が繋がってきていると感じる。職員集団のまとまりをさらに高めていってほしい。 <p>II 学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働的な学習の導入が，子どもの学ぶ意欲を引き出し，調査の結果に繋がっているのではないかと。これは時間や手間がかかるので大変だが，一緒にやろう，学ぼうという姿勢が育つ。継続して取り組んでほしい。 ・ICTについては，子供が興味を強く持っている。これを学力向上に繋げるには，若い先生方の活躍が必要である。若い先生方は，吸収力が大きく新しいことにどんどん挑戦する気持ちがある。これが生徒にも伝わって活気生まれる。合唱への取組も同じでハレルヤに挑戦しようというやる気にもつながっているのではないかと。 <p>III 生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が，授業の合間や空き時間に教室に行き，生徒と過ごす時間を多くしているということだが，とても大切なことで，1日のうちで全員と話すことは難しくても，必ずアイコンタクトをとるようにするなど，丁寧に続けてほしい。たいていの問題は，教師が生徒の近くにいることで，気づくことができる。 	

- ・集中と開放の切り替えができる集団になっている。合唱コンクールが始まる際、少しざわざわしていたが、「始めます」の一言でピタリと静まり返った。指導が効果的に行われ、生徒の身についているという印象を持った。こうした切り替えの速さが、他の面でも相乗効果を生み、様々な成果が表れている。子供たちは一つのこと一心に取り組むことによって、心が開発され、効果的に響きあって、高まりあい、またさらに高いレベルの成長につながることもある。そうしたよい循環が生まれているのではないか。
- ・全国で大きな問題になっているいじめの問題では、「苦しい」「死にたい」といったサインを見逃さない丁寧な関わりが重要である。問題になった事件では、残念ながら担任でさえ記録ノートなどの記述を最後まで丁寧に読むことができていなかったという。生徒理解は生徒指導のイロハであり、本校ではそうした触れ合いを大事にしているが、今後、忙しさ、せわしさの中にあっても、きめ細やかさに欠けることがあってはならない。普段通りの日常の指導の中にこそ、情報の収集の場がある。さらに、その情報の共有が重要であるが、忙しさの中で、情報共有が不足することがある、このことも肝に銘じ、粘り強く取り組まなければならない。
- ・今、日本の社会は、全体の中で個性的な考え方をする者をすぐに攻撃し、排除しようとする風潮が蔓延している。いじめの問題では、子供を被害者と加害者に分け、対応することが盛んに取り上げられているが、実は関わった子供たちはみんな被害者であって、そうしたレッテル貼りや決めつけでは解決しない。解決に繋げるには、感じさせ、考えさせないといけない。例えば、話し合いや議論、演劇によるロールプレイ等によって生徒の内面に迫る学びが必要だと思われる。

IV 保護者・地域との連携について

- ・小学校との連携は、順を追ってより具体的に進めてほしい。小学校では、きめ細やかな指導がされているが、他律的な指導が中心になる。中学校では自我の発達に合わせ、より自律的な力を伸ばす指導になる。中学校の入学は、中1ギャップなどと言われるが、それまでの生活をいったん解体し、再構成するときだと考えている。このことを生徒自身が自覚できる連携を構築してほしい。
- ・学区内の小学校は4校あり、それぞれに培った豊かな文化がある。ぜひそれらを融合させて楡形中の文化とし、一層高めていってほしい。また、地域の住人としては、災害時に地域の人々を救う力を中学生につけてほしいと願っている。具体的には、自治会と連携して高齢者の所在や地域調査を行い、実際に防災訓練にも参加するなどの学習を仕組むとよい。自分たちが地域の役に立つという経験をさせ、地域を支えているという誇りを持たせたい。

V 学校の特色について

- ・全校合唱ハレルヤへの取組は、本校の目指す学校像である「心と心が響き合う学校」に繋がる価値ある活動である。今年の学園祭、公開研究会でのハレルヤを聞いて、その成長は素晴らしいと感じた。生徒は自発的に生き生きと歌っており、その質の高さから、指導のポイントを外さない的確な練習ができていると思われる。生徒自身の中に教育的雰囲気生まれ、合唱を通して共感し合う、喜びながら歌う、豊かな気持ちがあつてきたからではないか。地域の皆さんにも披露して聞いてもらってもいいのではないか。

記載責任者 : 楡形中学校 学校関係者評価委員長 名取 英雄

